

# みなみ公民館だより 2月号

(令和8年2月1日 発行)

編集 蕨市立南公民館 蕨市南町2-23-19

TEL 048-442-4055・FAX 048-443-0761



No.430

## 桜のまち南町文化展 だれでも参加できる美術展

春だ！桜だ！文化展 心癒す桜の開花を待ちながら 〈今だから描く 今だから創る〉に専心され生み出された作品の数々を広く公開いたします。

美術・芸術文化に親しむ機会と共に生涯学習の推進を目的とします。

3月28日(土) 10時～16時

29日(日) 10時～15時30分

但し、29日(日)の3階集会室【蕨市公募美術展覧会受賞作品・一般作品(写真・絵画)】は、12時までとなります。

主催 桜のまち南町文化展実行委員会・蕨市立南公民館

後援 南町コミュニティ委員会・南町7町会・みなみフレンズ・蕨市子ども会育成連合会南町支部・南町桜並木保存会・蕨市社会福祉協議会南町支部・南町商和会

作品募集期間：2月10日(火)～3月11日(水)(平日10時～16時の間のみ)

作品の応募につきまして、詳しくは南公民館にお問い合わせください。

皆様の力作をお待ちしております。

## 講座のご案内

### ◆エコキャップ・花苗交換事業

日時 2月9日(月) 14時～

場所 南公民館 1階ロビー

内容 エコキャップ100個と花苗1鉢を交換。  
1家庭4鉢まで。



### ◆小学生～高校生の点字入門教室

日時 2月14日(土) 10時～

場所 南公民館 2階団体連絡室

対象 市内の小学生～高校生  
※登録制です。登録するには、事前に申込が必要です。

### ◆おはなしくまさん

日時 2月14日(土) 14時～

場所 南公民館 3階集会室

内容 絵本の読み聞かせや工作  
※今月は「おひなさまをつくろう」です。



### ◆初心者のためのスマートフォン教室

日時 2月17日(火) 13時30分～

場所 南公民館 2階団体連絡室

内容 スマホの使い方・LINE入門など  
定員 12組(先着順)  
申込 受付中 電話可

### ◆0歳児ママのふれあい広場

日時 2月26日(木) 10時～

場所 南公民館 2階和室

内容 桃の節句 おひなさま

定員 10組(先着順)

申込 受付中 電話・メール可



### ◆ちびのびクラブ ～春のお楽しみ会～

日時 3月12日(木) 10時30分～

場所 蕨市立南公民館 3階 集会室

内容 バルーンアートとパントマイム

定員 15組(先着順)

申込 2月2日(月)～  
交流プラザさくら(048-432-7271)

【御礼】おかげさまをもちまして、かねてより実施しておりました屋上防水工事が無事完了いたしました。工事期間中は、騒音や駐車制限等にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございました。今後も皆様に快適にご利用いただけるよう努めてまいります。

蕨市立くるみ保育園 おめんづくり((´▽`))

くるみ保育園 園長

2026年も子ども達の元気な声で保育園はスタートしました♥

2歳児クラスでの新年最初の製作がとても可愛かったのでご紹介させていただきます。

担任からのコメント

絵本「おめんです」をモチーフにして、絵本に出てくる”だるま”おたふく“ひょっとこ”のお面づくりを楽しみました。

絵本「おめんです」は、リアルでちょっと怖いくらいのお面の仕掛けをめくると、可愛い動物たちが登場するという「ドキドキ」と「かわいい」が詰まっている絵本です。

早速、子ども達に印象的だったお面を選んでもらい、顔のパーツを貼ってもらうと個性豊かなお面がいっぱい出来上がりました♥



河鍋暁斎記念美術館 2026年2月展覧会

企画展「<sup>きょうさい</sup>暁斎・<sup>きょうすい</sup>暁翠 七福神めぐり」展

同時開催 特別展「『暁斎画譜』の世界」展

※最新の情報は美術館のホームページでご確認ください。

<http://kyosai-museum.jp>

会期：2026年1月4日（日）～2月25日（水）

休館日：毎週火・木曜、毎月26日～末日、年末年始

入館料：一般600円、高校生・大学生500円、小・中学生300円、65歳以上500円

第1・2展示室では、皆様の今年一年の開運とご多幸を願い、暁斎と娘の暁翠がおめでたい七福神を描いた掛軸・錦絵・絵馬・遊び絵などを取り揃えた企画展を開催中です。

また第3展示室では、暁斎の絵本『暁斎画譜』（明治14年<1881>）の南画風の彩色版画を複製パネルでお楽しみいただきます。

【 今月のお勧め作品 】

柳に春駒図 暁斎（署名：惺々暁斎書／印：惺々） 紙本墨画 軸装

芽吹いた柳の木の下で、前脚を高く跳ね上げる馬。「春駒」は、旧暦正月七日、天皇の御前に21頭の白馬を引き出す「白馬節会」に由来する画題で、多くの狩野派の絵師が描いていました。暁斎も狩野派ならではの肥瘦の激しい墨線を用いて、素早い筆致で一気に描き上げています。その姿はまるで天まで駆け上がっていくような勢いで、午年の新春にふさわしい、すがすがしい作品です。

